

《カトリック大和高田教会 お知らせ》 2024年11月24日

典 礼 暦	日 時 など	
王であるキリスト (祭)	11月24日 (日) ミサ	10:30
	11月28日 (木) ミサ	10:30
聖アンデレ使徒 (祝)	11月30日 (土) ミサ	なし
待降節第1主日	12月 1日 (日) ミサ	10:30
	12月 5日 (木) ミサ	10:30
	12月 7日 (土) 黙想会	10:00
	ミサ	11:30

【京都司教区】

- 第二バチカン公会議を学ぶ～シノドスの歩みのために～

【ZOOM 講座】次回は **2025年1月10日(金)**。詳細は、ホール掲示板。

【奈良ブロック】

- ウォーカーソン：11月23日(土、**勤労感謝の日**)

▶参加された皆さま、お疲れ様でした。

参加出来なかった方はスポンサーとしてご協力をお願いします。

- 「差別をなくす奈良県宗教者連帯会議 (奈宗連)」詳細は掲示板
11月26日(火)：40周年記念事業～差別をなくす平和の巡拝～
- 【登美ヶ丘教会からのお知らせ】

《12月1日に30回忌の命日を迎えるトニ・グリーン神父様を偲んで》

▶11月30日(土)13時～映画「愛の鉄道」上映

15時～、追悼ミサ(司式：一場神父様)

- フィリピン宣教会60周年記念・「2025 聖年・希望の巡礼の旅」

2025年1月22日(水)～1月27日(月)6日間

チラシをご覧の上、直接旅行社へお申し込みください。

- 【「聖書を学ぶ会」から】今年の講話(全四回)がYoutubeで視聴できるようにになりました。詳細は、掲示板をご覧ください。

【大和高田教会】

◎典礼部会を12月1日(日)ミサ後に小聖堂で行います。

▶「待降節・降誕ミサ」「神の母聖マリアミサ」の準備です。

◎クリスマスの飾り付けを本日(11/24)ミサ後に行います。

多くの方のご協力をお願いいたします。

◎「京都教区時報」「心のともしび」12月号を受付にて配布中です。

持ちかえってお読み下さい。(ボックスへの配布は中止しました)

- 11月は死者の月です。お亡くなりになった方のお名前を書いて、聖堂後方の箱にお入れください。
- 「2024・待降節黙想会」：指導司祭はホン・ユンハク神父様です。
日時：12月7日(土)10時から 講話とミサ、分かち合い
▶「ホン神父様は12月末に韓国・済州教区に戻られます。
たくさんの信徒で感謝とともにお見送りしましょう。
※昼食(軽食300円)の申し込みは12月1日(日)13時まで
詳細は、掲示板・ポスターをご覧ください。
- 【国際協力委員会から】船員司牧のための『帽子とマフラー』を
12月1日(日)、神戸マリナーズセンターへ発送いたします。
- 「聖書の分かち合い」(Sr.ローマ)：11月28日(木)ミサ後
- ◆ 教会掃除当番
12月 1日(日)ミサ後 : 奉仕日(全員)
12月 8日(日)ミサ後 : D地区

本日の聖歌

入祭典	159	門よとびらを 開け	奉納典	99	しあわせな人
答唱		聖書と典礼	拝領典	46	神の注がれる目は
アレルヤ		聖書と典礼	閉祭典	411	わたしは門の そとに立ち

【典：典礼聖歌、聖：カトリック聖歌集、平：平和を祈ろう】

11月24日 王であるキリスト ヨハネ18章33～37 王だとはあなたが言っていることです

今日は年間最後の主日、典礼暦では年末にあたります。待降節第一主日から始まる一年で救いの歴史を記念するので、最終週は世界の終わりを記念することになります。世界の終わりにはこの世が神の国となり、キリストが王として再臨されます。それで今日は「王であるキリスト」を記念します。

世の終わりという今日福音よりも先週の福音、さらには来週の待降節第一主日の福音のほうがふさわしいように思いますが、イエスが王であるかどうかは裁判の席上で問われた場面が朗読されます。わたしたちはイエスがどのような王であるかをこの箇所から学ぶように勧められているのです。

この時代、ユダヤはローマ帝国の属州でした。ローマ皇帝の直轄領として、総督ピラトが管轄していました。裁判の席でピラトが「ユダヤ人の王」にこだわったのは、ユダヤで王を自称することは皇帝に対する反逆にあたるからです。彼はそれを確認したかったのだと考えられます。

ピラトの人物像については諸説ありますが、イエスの罪を認めず、無罪になるように努力したイエスの味方という説があります。のちにキリスト者になったともいわれています。一方で、イエスの処刑の責任をユダヤ人に転嫁し、自分は関係がないとするずい人物という評価もあります。いずれにしてもイエスの処刑にかかわったわけですが、権力と政治と保身のはざままでイエスの運命は決められていったのです。

王様という富と権力を持って人々を支配するというイメージがありますね。「王様ゲーム」もそのイメージで行われます。また、民衆にとってはいきなり「今日からわたしが王だ。皆の者は従え。逆らうことは許さん！」と命令されてしまう存在です。けれども、イスラエルの歴史では、本来の王は神によってえられ、人々は喜んで迎える存在でした。もちろんイエスは後者の王です。

神の国は、貧しい人々や苦しみを受けている人々から始まり、すべての人が互いに愛し合い、神のもとに喜び集う世界です。それは神がこの世を滅ぼして与えるものではなく、神の助けのもとで人間が作り上げていくものです。それがイエスの受難と復活によってはじめられたのです。ですから、イエスの愛に応じて人類が神の国を用意することができたときにイエスが王として迎えられるのは当然のことであると言えるでしょう。

イエスはピラトの「やはり王なのか」という問いに対して「わたしが王だとは、あなたが言っていることです」と答えられました。すべての人が神の愛を受け入れ、イエスの願いである神の国の福音を受け入れるとき、あの世の者も含めてすべての人は「イエスこそわたしたちの王だ」と言うことなのでしょう。世の終わり＝神の国は、神とわたしたち人間の思いが一つになるときのなのです。

(柳本神父)